
間違い電話

花鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

間違い電話

【Nコード】

N6232H

【作者名】

花鳥

【あらすじ】

ある日、主人公（作者）の携帯電話に一本の電話が来た。その電話から主人公の初恋が始まった。

読む前にこれ読んでください。（前書き）

この小説は作者である自分の体験談を元に書きました。

初めて小説を書いたので、誤字 脱字あるかもしれませんがよろしくお願いします。

注）小説中の名前は偽名です。

後、感想をどんどん送ってください。

読む前にこれ読んでください。

もしも、あの時電話が来なかったら？

もしも、あの時電話を取らなかったら？

あの、間違い電話が無かったら僕はまだ、人を好きになる事も無かっただろう。

一本の間違い電話から僕の初恋が始まった。

主人公設定

坂本 東谷

サカモト トウヤ (15) 誕生日7月14日身長169cm
体重63kg

どこにでもいる中学3年生。

友達の明仁によくツッコム。

斉藤 明仁

サイトウ アキヒト (14) 誕生日2月10日身長174cm
体重64kg

主人公坂本の幼馴染みの一人。身長が高い事をコンプレックスに感じて
いる。よく馬鹿な事を言っ
て坂本にツッコまれる。

安藤 咲

アンドウ サキ (15) 身長157cm
体重45kg

誕生日12月3日坂本と斉藤の幼馴染み

坂本の事が気になっているが告白出来ないでいる。

志津 シツ

(18)

偶然、坂本の携帯に電話を掛けて来た高校3年生。坂本が何故か？
掛け直して誤った後、坂本とうまが合っ
てメル友になっ
てよくメー
ルする。

プロローグ（前書き）

不定期更新ですが、楽しんで読んでください。感想どんどん送ってください。但し、誹謗・中傷の類いはお断りします。

プロローグ

恋愛って何だろう？

人が人を好きになったり愛する事って、どんな気持ち何だろう？

友達がよく恋バナをしていたが俺は興味がなかった。

この時からだろうか。

俺には恋愛感情なんてあるのだろうか？

それとも、そんな感情が、俺の心から欠落していたのかもしれない
と思ったのは。

何度か考えた事があったが、分からない。

そんな時だった。

俺の耳に携帯電話の着信音が、聞こえてきたのは。

俺は電話をとってしまった。

その電話が、俺の切ない初恋の始まりとは知らずに。

始まり 朝のひとコマ

「ん、朝か。ふあああ。起きるか。」

読者の皆さん。おはよう。この小説の主人公のみんな大好きな坂本

東谷だよ。

すみません。調子こいて、だから石投げないでください。

さて、俺はこれから学校へ行く為に着替えるから覗くなよ。

えっ。男の着替え何か見たくない。

うるせえ。文句があるなら作者に言え。作者に。あつ、ちよつと待

て。その肩に掛けてあるバズーカをこっちに向けるな。

ギャーーーーー

しばらくお待ちください。

何とか、着替えたぞ。えっ、制服。普通の学ランだよ。

どこに向かつてるかってリビングだよ。

「おはよー」と俺はリビングにいた両親と妹に声を掛けた。

「おっ。やっと起きたか。藍はお前より先に起きたぞ。恥ずかしくないのか。」と今、新聞を読みながら俺に文句を言ってるのは、俺の親父だ。見た目完璧な堅気の人に見える為、家の近くに住んでる人達は慣れているが、親父を初めて見た人は、警察を呼ぶ事があるが良くある。

本人曰く、「俺のどこが堅気の人に見えるんだ」としよつちゆう母に愚痴っているが、息子の俺から見ても何故か完璧に見えてしまう。(笑)「もう。お父さんだって藍より起きるの遅かった。」と頬を膨らまして怒っているのは妹の藍。小学生三年生。俺と違ってよく母の手伝いをする。

「藍。

「藍。そこまでお父さんに怒らなくていいのよ。私が後で殺るから」とめちやくちや物騒な事を言ってるのは母である。

もうすぐ四十なるのに見た目完璧に二十歳に見えるからびっくりする。

「東谷。今、私の歳の事を考えたでしょう。」と顔は笑っているがバツクに般若が見える。あなたはエスパーですか、とツツコミたいがそんな事をすれば地獄が待っているので、「すみませんでした。」とまあ母に対してジャンピング土下座。

「ふふ。誤ってくれるなら許すわ。」何とか機嫌を直してくれた（
.....）。

「母さん。兄さんも早く朝御飯食べよ。」

「そうね。さっ食べましょう。」

「.....いただきます。」

これがいつもの朝の風景。

えっ、親父。

藍の一言でリビングの隅で凹んでる。何で声掛けない？

だって、完璧堅気に見える人が凹んでする姿シユールじゃない？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6232h/>

間違い電話

2011年10月9日19時02分発行